

別記

ホルムアルデヒドの試験において、繊維製品からある種の加工剤（ロート油、カリ石けん等）が溶出した場合には濁りを生じることがあるが、当該濁りは溶液のpHによって度合が変わり、アセチルアセトン試液を用いた吸光度Aの測定における濁りの影響が、精製水を用いた吸光度A₀の測定における濁りの影響より大きく出るので吸光度A₀の測定においてこれを補正する必要があることから、この場合の吸光度A₀の測定は次によるものとする。

試験溶液 5.0ml を正確に採り、酢酸－酢酸アンモニウム緩衝液 5.0ml を加えて振り混ぜ、40℃の水浴中で30分間加温し30分間放置したのち、精製水を対照として、吸光度A（又はA₀）を測定した場合と同じ波長における吸光度A₀を測定する。

酢酸－酢酸アンモニウム緩衝液

酢酸アンモニウム（日本工業規格試薬特級）150gに適量の精製水を加えて溶かし、氷酢酸（日本工業規格試薬特級）3mlを加え更に精製水を加えて1,000mlとしたものを用いる。